

平成 25 年度
千種町英語教育研究会
実践記録集



宍粟市立千種小学校
宍粟市立千種中学校
兵庫県立千種高等学校
千種町英語教育研究会

目 次

1 はじめに	2
2 千種町における「英語教育研究会」の活動について	3
3 「英語教育情報交換会」(於：中学校・高等学校)の記録	4
4 小中連携授業「外国語活動」(於：小学校)の記録	9
5 中高連携授業「英語」(於：中学校)の記録	11
6 「英語授業研究会」(於：中学校・高等学校)の記録	12
7 資料①：千種町幼少中高連携一貫教育実践記録所収「英語科学習系統表」	26
8 資料②：千種高等学校HP 英文版ブログに見る「千種の教育活動」	30
9 編集後記	39

1 はじめに

千種町英語教育研究会
会長 喜多 英雄
(宍粟市立千種中学校長)

小学校では、平成23年度から5・6年生に外国語活動が週1時間導入されました。中学校においては、授業時数が平成24年度から1時間増えて、週4時間となりました。また高等学校においては、平成25年度から年次進行で英語の授業は英語で行うことを基本とすることになりました。学習指導要領では、英語教育の目標として小・中・高を通じて、コミュニケーション能力の育成を掲げています。かつてはどちらかと言えば、「読み・書き」に重点を置いた、単語・文法などの知識習得が中心でした。それを社会の場で実際に英語が使えるようになること、つまり「聞く」「話す」も含めて外国の人々とコミュニケーションをとれるような能力の育成を目標とすることと定義しています。コミュニケーション能力の育成を目標とする英語教育や外国語活動が学校現場で定着すれば、「グローバル人材」を育てる基盤が出来ると考えられています。

平成22年度に、兵庫県で初めて千種町内の小・中学校に学校運営協議会が設置されました。また同年度に千種中学校と千種高等学校が「連携型中高一貫教育校」に改編され、小・中・高の連携一貫教育体制が確立しました。これらの経緯を踏まえ、本年度も「子どもに夢を 千種に元気を！」という推進目標をかかげ、連携一貫教育の実現をめざして取り組みを進めています。

英語教育においても、今年度小・中・高の英語科教員及び外国語活動担当教員が主体となって、出前授業・相互授業参観・情報交換を通じて、小中高一貫した英語教育に取り組んできました。また、10月には英語教育界の最高賞である「パーマー賞」を受賞された稲岡章代先生にご来校いただき、研究授業への指導・助言及び英語教育の在り方・方向性について講義を賜り、英語教員にとって有意義な研修となりました。

来年度も、小・中・高の教職員の心をつなげて、国際的視野を持った児童・生徒の育成を目指して、邁進していくことをお約束してはじめての言葉といたします。

2 千種町における「英語教育研究会」の活動について

千種町英語教育研究会
事務局 原田 尚昭
(千種高等学校教頭)

(1) 「英語教育研究会」活動の意義

平成25年度は、英語教育界にとって大きな変化を見た年となりました。小学校に「外国語活動」が導入されて3年目となり、11月には5・6年生での「英語」や3・4年生での「外国語活動」の将来的実施が決定されました。また、高校では「英語の授業は英語で行う」ことが基本とされたのも今年であり、将来的には中学校でも実施されることが、文部科学省の「英語教育改革計画」の中で示されました。

このような動きの中で、町内の小中高校が手を携えて情報交換を行い、共に授業研究を行っていくことには大きな意義があり、大きな進歩があったか否かは別としても、とにかく互いに「動くこと」が大事であると考え、本会の活動を行いました。

(2) 「英語教育研究会」平成25年度の動き

4月初旬	千種町英語教育研究会構想立案
5月中旬	兵庫県教育委員会主催「教職員自主的研究推進事業」申請
6月 1日(土)	上記事業認可
6月15日(土)	小中連携授業実施(於:小学校)
7月25日(木)	第1回英語教育研究会情報交換会(於:中学校)
8月22日(木)	第2回英語教育研究会情報交換会(於:高等学校)
9月20日(金)	中高連携授業実施(於:中学校)
10月15日(火)	英語授業研究会・講演会(於:中学校)
10月25日(金)	中高連携授業実施(於:中学校)
11月29日(金)	中高連携授業実施(於:中学校)
12月 2日(月)	英語授業研究会(於:高等学校)
12月10日(火)	小中連携授業実施(於:小学校)
1月31日(金)	中高連携授業実施(於:中学校)

(3) 平成26年度への展望と他教科活動への波及について

来年度においても、上記の如き各校間の「連携授業」や合同の「英語授業研究会」を引き続き実施するとともに、千種町ならではの活動、例えば「千種学」や映像版昔話「しその逸話・千種編」の英語教材化、或いは幼少中高どの年齢でも使える「英語童謡マザーグース」の普及活動等に取り組みたいと考えています。

また、同様の活動を少しずつ他教科にも広げ、例えば高校の数学教師が小学校の算数授業を見学する機会を設けて、教員研修の質的向上を図りたいと考えています。

3 「英語教育情報交換会」(於：中学校・高校)の記録

(1) 第1回会議：平成25年7月25日(木) 13:10~14:30 (於：中学校会議室)

参加者：中学校 中田教諭 高校 原田教頭 松井教諭

内容：英語授業研究会を進める上で、まずは中高の英語科教員による情報交換や現状の課題把握が肝要であるという認識から、松井教諭と中田教諭から各校の報告及び授業の在り方についての発表が為された。

ア 高校での実践および課題

発表者：千種高校 松井 利澄 教諭

1 高校での実践

①チャレンジコース

・音読指導(高校入学時より継続)

各レッスン終了ごとに音読の音声収録→次時、CDに焼いて確認

※英語独特の発音・強弱を重視

・ライティング指導(高3生対象)

週末課題としてノート半ページ分に英文日記を書かせる。

※ALTが添削、コメントを書いて返却。

・定期的な補習(英検対策、受験対策)

②ベーシックコース

1年次はチャレンジと同じ内容

2年次からは教科書を変えてレベルに応じた指導

③アクティブコース

使用教科書の選定

TTの強化(同室複数で必要に応じて別内容も)

※中学校の復習も含めた指導

2 課題

①生徒の家庭学習の絶対量不足

・学校評価にも毎年低い評価となっている。

・繰り返さない。

・課題を出さないことが習慣化している。(特にベア)

②ALTの指導

・来校するALTによって指導力やモチベーションが異なり、実態にあった指導をしてもらいにくい。

③高3生の伸び悩み

・周りが指定校や推薦等で私立大学、専門学校に進学を早々と決めてしまうことによる焦り

・モチベーションの低さ(大学より資格が取れる専門学校を選ぶ傾向がある)

④教材研究の時間不足

・持ち時間数、分掌の多さ、作問などによる教員の多忙さによる時間の確保が課題。

楽しくわかりやすい英語授業の創造

宍粟市立千種中学校

英語科 中田 吏

目標 「自分を表現すること」を重視した活動に取り組みさせる。「話す」技能の向上に関しては、類出の例文ばかりでは力もつかず、楽しさも半減するので、様々な工夫が必要となる。

活動内容① 毎時間の授業開始時に Warm-up プラクティスの一環として、Question & Answer を行っている。(20問・制限時間2分)内容は疑問文とその応答の練習であるが、意欲付けのために様々な工夫を行っている。以下に工夫のポイントを述べる。

①毎時間行う。

毎時間行うことにより、「英語を話すこと」への抵抗感が格段に減り、積極的に英会話に取り組めるようになる。またペアは毎時間変わるように指示をし、男女問わずペアを組み合わせることで、学級の仲間との英語でのコミュニケーションを図らせる。

②定期的に改訂を行う。

単元が進むごとに、使える英語表現の数は増えていくので、内容の改訂を定期的に行う。また3年生の内容に関しては、新出文法事項を加え、最新のものに改訂を行いながら、既出の文法事項の中から、理解が不十分な分野の内容を再度取り入れ、復習にも力を入れる。

③「自分を表現する」ことに重点を置く。

決まりきった問答にならないように、自分自身のことを表現できる質問を厳選し、行う。自分のこと、家族のこと、友達のことなど身のまわりの大切な人のことを考えるきっかけにもなる質問も取り入れる。

Question & Answer Practice



Class() No() Name()

1. あなたの名前はなんですか。
2. あなたはどこに住んでいますか。
3. あなたは何歳ですか。
4. あなたは何のスポーツをしますか。
5. あなたはいつバレーボールをしますか。
6. あなたはどの教科が好きですか。
7. あなたは犬が好きですか。
8. あなたはコンピューターが欲しいですか。
9. あなたは兄弟・姉妹が何人いますか。
10. わたしのえんぴつはどこですか。
11. 今日は何曜日ですか。
12. 英語先生は単語を練習しますか。
13. あなたの一番好きな食べ物は何ですか。
14. 今、何時ですか。
15. 今、何月ですか。
16. あなたの誕生日はいつですか。
17. あなたの数学の先生は誰ですか。
18. あなたの母の名前は何ですか。
19. リック先生は(今)、英語を話していますか。
20. あなたの母は(今)、何をしていますか。

1. My name is ...
2. I live in ...
3. I'm twelve / thirteen.
4. I play volleyball / I don't play any sports.
5. I play volleyball every day.
6. I like English.
7. Yes, I do. / No, I don't.
8. Yes, I do. / No, I don't.
9. I have two brothers and one sister.
10. It's on your desk.
11. It's Monday.
12. Yes, he (she) does. / No, he (she) doesn't.
13. My favorite food is pizza.
14. It's 11:35.
15. It's January.
16. It's in May.
17. My math teacher is Mr. Sakamoto.
18. Her name is ...
19. Yes, he (she) is. / No, he (she) isn't.
20. She is working.

Question & Answer Practice

A

Class() No() Name()

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. What is your name? 2. Where do you live? 3. How old are you? 4. What sport do you play? 5. When do you play <u>volleyball</u>? 6. What <u>subject</u> do you like? 7. Do you like <u>dogs</u>? 8. Do you want a <u>computer</u>? 9. How many brothers and sisters do you have? 10. Where is <u>my pencil</u>? 11. What day is it today? 12. Does <u>Mr Nagao</u> practice <u>table tennis</u>? 13. What is your favorite food? 14. What time is it now? 15. What month is it now? 16. When is your birthday? 17. Who is your <u>math</u> teacher? 18. What is your mother's name? 19. Is <u>Mr. Zoch</u> speaking English? 20. What is your mother doing? | <ol style="list-style-type: none"> 1. 私の名前は…です。 2. 私は…に住んでいます。 3. 私は12/13才です。 4. 私は<u>バレーボール</u>をします。/スポーツをしません。 5. 私は<u>毎日</u>、<u>バレーボール</u>をします。 6. 私は<u>英語</u>が好きです。 7. はい / いいえ 8. はい / いいえ 9. 私には兄(弟)が…人と、姉(妹)が…人います。 10. <u>あなたの机の上</u>にあります。 11. <u>月曜日</u>です。 12. はい / いいえ 13. 私の一番好きな食べ物とは<u>どげ</u>です。 14. <u>11時35分</u>です。 15. <u>1月</u>です。 16. <u>5月</u>にあります。 17. 私の数学の先生は<u>坂本先生</u>です。 18. 彼女の名前は…です。 19. はい / いいえ 20. 彼女は(今) <u>書いています</u>。 |
|---|--|

評価については毎時間行うとともに、内容の改訂を行うときにもリーディングテストと称した確認テストを行う。

①毎時間の評価

学級のメンバー全員の名前が記載された Check Card を配布し、毎時間記入する。このシートを用いて、同じ相手とばかり Question & Answer を行わないようにする。Question & Answer は制限時間を2分とし、制限時間内に何問答えられたかも評価の対象とし、シートに答えられた数を記入する。

Q&A Check Card

	Daiki	Yuki	Yuma	Yuto	Yuki	Yuma	Yuto	Yuki	Yuma	Yuto
0時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
2時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
3時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
4時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
6時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
7時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
8時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
9時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
10時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
11時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
12時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
13時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
14時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
15時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
16時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
17時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
18時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
19時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
20時	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

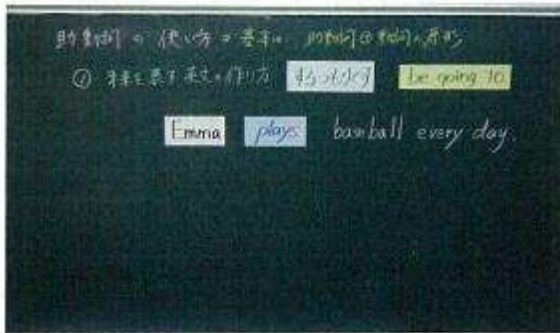
②リーディングテスト

内容の改訂を行い、次のステップの Question & Answer に進むときには、ALT との確認テストを行う。テストの内容は、まず20問の中からランダムに ALT から英語で質問を行い、それに答える。次は生徒から ALT へ英語で質問を行う。

成果と課題

Question & Answer を行うようになり、英語での会話がスムーズに行えるようになった。また英語による問答が自然に行えるようになったことから、多くの構文が記憶として生徒たちに残っており、テストの「書く」問題に関して正答率がアップした。今後は一問一答形式ではない、ある程度のまとまりのある分量の英会話にもチャレンジしていきたい。

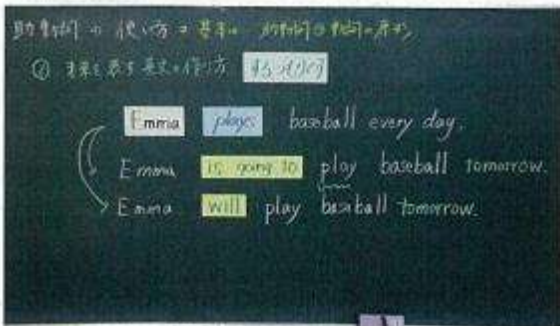
活動内容② 新出文法事項の理解を深める、工夫された授業展開と板書



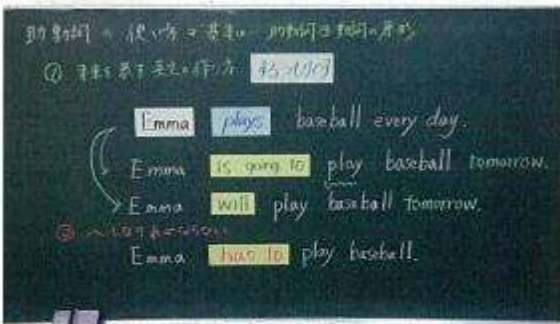
① 新出「助動詞 will」の導入に際し、まずは現在形の構文から復習を始め、主語が三人称単数現在形の場合の復習を行う。この復習を通して 3 単現の s,es の復習と現在形の文章を確認させる。



② everyday を tomorrow に変えることで時制が変化することを確認し、未来形の構文を導入する。tomorrow は緑色で板書し、未来形を表す新たな表現 be going to~も緑色の文字カードを用いる。そのことで今日の授業では「緑色」が「未来形」を表すことを色覚的に伝える。



③ be going to~の部分を will に変えるだけで同じ未来形の構文が作れることを確認する。will も be going to~, tomorrow と同じく緑色の文字カードを用い、両方が同じ時制を表す構文であることを②と同様に色覚的に確認させる。



④ 「~しなければならない」という意味の構文の説明を平行して行う。未来形 be going to~, will と用方が同じであることから、生徒たちが理解しやすいと考えられるためである。ただし、時制の違いを確認するために色を変え、ピンクの文字カードを使う。



⑤ have to~/has to~と must が同意であることを確認させる。be going to~, will と同じパターンで英文を完成させることから、とてもわかりやすい授業が展開できる。新出文法の説明に既出文法との比較を取り入れることでさらに理解を深めることができる。

成果と課題 ICT を活用することももちろん行うが、毎時間活用する生徒たちの日々の学習にかけがえのない「黒板」を高度な技術で活用し、わかりやすい授業を行うことは我々教職員の使命である。1時間の授業が進むにつれ、本時の目標やねらいに向け黒板が完成されていく。その行程にこそわかりやすい授業の本質がある。生徒たちは完成へ向けて仕上がっていく板書とともに自分の理解を確認する。板書の工夫とともに ICT の効果的な利用を進め、視覚に訴える授業の構築が必要である。また、さらに理解を深める自作のワークシート、activity（別紙参照）との併用が大切である。

(2) 第2回会議：平成25年8月22日（木）13:00～14:30（於：高校応接室）

参加者：小学校 谷口教諭 中学校 中田教諭
高校 原田教頭 松井教諭 田中講師


内 容：今回は小学校の外国語活動担当教諭を交えて情報交換を行った。外国語活動については、現在中学校の ALT・Zack 先生がほぼ毎週の火曜日の午後小学校を訪れ、5・6年生に対して担任と共に授業を行っており、年に2回中学校の英語科教諭が訪問して「連携授業」を行っている旨の報告が口頭でなされた。また、高校から田中講師の発表があり、以下のような内容であった。

ア 高校での実践と課題 発表者：高校 田中 孝英 講師

- 1 授業における実践
 - ① チャレンジコース
 - ・ライティング指導（高2生対象）テキストの各レッスンごとに、重要構文や表現を暗唱し、毎時間暗唱テストを行う（筆記） ・週1回の放課後補習
 - ② ベーシックコース
 - ・音読指導（個人読み、ペアリーディングにおける工夫）
 - ・単語力の強化（スラッシュカードを用いた活動、単語小テスト）
 - ③ アクティブコース
 - ・中学校での既習内容の復習
 - ・音声CDを用いた音読指導（イントネーション・アクセント）
- 2 現状の課題
 - ① 家庭学習量の不足（特に英語を「書く」こと）
 - ・復習をする習慣がなかなか定着しない。（授業内容、単語、小テスト etc）
 - ・提出物の不備（単語練習プリント・やり直しプリント etc）
 - ② 英語を読むことはできても、正しく書くことができない。
 - ・特に1年生にみられる。例えば orange を英語らしくきれいに発音できるのに、スペルを書かせると orenge などと書いてしまう。
 - ② 実力の伸び悩み
 - ・定期テストや暗唱テスト、小テストなど、出題形式が分かっているものについては、しっかり取り組み高得点をマークする。しかし少し形式を変えて出題したり（例えば扱った文章は変えずに空欄補充問題を整序問題に etc）学外の模擬試験（特に記述式）になると、とたんに得点が下がる。勉強＝丸暗記で済ませているように見受けられる。
- 3 2学期以降の新たな授業工夫
 - ・英語 I または英語 II における「和訳先渡し」の授業を検討中。生徒の実力の実態を考慮すると、現在はどうしても訳読式の授業にならざるを得ないが、和訳を先に渡すことによって生まれた授業中での時間を、他の英語活動（音読や書くこと etc）に使う試みをしてみたい。

4 小中連携授業「外国語活動」（於：小学校）の記録

小中連携交流授業実践記録

実施日時	平成25年 6月 15日(土) 10:30 ~ 12:05	
授業者(所属)	中田 吏 (千種中学校)	
場 所	千種小学校	
対 象	5年生・6年生	
教科・内容	外国語活動(英語)	
授業者より	気づき(分かったこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしがらず小学生が英語を話すことにより、テンポの良い授業を行うことができた。 ・外国語活動の授業で身につけた語彙力(聴く、話す)はしっかり定着できている。身のまわりのことやあいさつを英語で行うことができる「自信」を小学生が持っていることに感心した。 ・ALTとの毎週の授業により、ためらいなく英語を使い、外国の方とコミュニケーションをとることができている。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉オープンスクールの土曜日ということもあり、たくさんの保護者の方々に参観していただき、児童が英語に取り組む、楽しそうな様子を見ていただくことができた。 ・少人数での学習が効果的であることも再確認できた。 ・今後、小学校における外国語活動(英語)の教科科に対応していくために、教員の様々な研修が必要になってくると思われる。さらなる小中連携を進め、教育課程の連携を図っていかねばならない。
	感想	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が、外国語活動で学習した内容を確認することができたので、次年度の新中学1年生の英語科の年間指導カリキュラムを再考する必要がある。 ・学年により英語の学習進度が違うので、ALTとの打ち合わせを丁寧に行い、年間指導カリキュラムを見直す必要がある。 ・新1年生の英語の学習がスムーズにスタートできるようしっかり準備し、小学校の外国語活動と中学英語のなめらかな接続を図っていきたい。
参観者感想	<p>○教材が色とりどりで、写真や絵も使われており、見ているだけでとても楽しそうな雰囲気が伝わってきました。昔の英語の授業とは、根本的に違ってとても楽しそうでした。</p> <p>○たくさんの英語が使われていましたが、子どもたちはその内容を理解できており、日本語での説明や補足がなくてもきちんと把握できていることに感心しました。とても楽しい授業でした。またすごく感動しました。</p> <p>○中学校の先生もALTの先生もとても豊かな表情や、大きな身振り手振りなどを使って授業されていました。すごく表現豊かな英語の授業に感動しました。自分の子どもがなんとか英語で話そうとする姿にもとても感動しました。毎回とても工夫された授業が行われているようで、そのことも子どもたちはいつも喜んで家で話してくれます。</p>	
児童の感想	<p>○今日は中学校の中田先生も来てくれました。去年も来てくれました。だから覚えていました。ザック先生と中田先生が、大きな声で楽しそうに英語を教えてくださいましたので、僕はとても楽しかったです。とても嬉しい気持ちになりました。</p> <p>○毎回たくさん英語の単語を覚えることができ嬉しです。もっともっと勉強して、英語で文章が話せるようになります。</p> <p>○今日は、中学校の中田先生と、ザック先生が来られました。2人とも声が大きくて、またいつも笑っておられました。だから私も楽しくなりました。今日は新しい単語がたくさん出てきたけど、ゲームをしながら楽しく覚えることができました。</p>	
		

小中連携交流授業 実践記録

実施日時	平成25年12月10日(火) 14:30~15:15	
授業者(所属)	高下 愛 (千種中学校)	
場所	千種小学校	
対象	6年生	
教科・内容	外国語活動(英語)	
授業者より	気づき (分かったこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない児童や困っている児童に対して、子ども同士でとっさに助け合う自然な姿が見られた。 ・gとz、bやvといった聞き分けづらい音もきちんと聞き取れる児童が多く、普段から英語に慣れ親しんでいることがよく理解できる。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童はどのような活動に対しても積極的に取り組む姿勢が身についている。恥ずかしがる事もなく自ら英語を話そうとできるため、外国語活動自体はスムーズに行うことができる。 ・子ども同士での助け合いは見られたが、私自身が個別に支援することができなかった。事前準備として、あらかじめ児童の様子を把握しておく必要があったと反省をしている。 ・6年生ということを見ると、もう少し中学校に近い内容を教材化してもよかった。少し簡単な内容であったように思う。
	感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ザック先生と2人での授業だったためとても心強かったが、もう少し普段とは違う「何か」を工夫できればよかった。そのほうが子どもたちもいい緊張感をもって取り組めたと思う。 ・来年中学校に入ってくる児童であるということもあり、今回その様子を少しでも観察することができてよかった。外国語活動の授業を通して、楽しそうに英語を話す児童の姿から、来年中学校での英語授業へ期待と責任を強く感じた。
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を線をつなぐゲームがおもしろかったです。また、やってみたいと思いました。 ・中学校の先生はとっても元気な先生でした。今日は楽しく英語ができたので、中学校でもがんばろうと思いました。 ・いつもやっている順番に英語で数字をやっているやつで、今日はいいタイムが出ました。みんな協力できたと思いました。英語をききながら英語を線をつなぐゲームは難しかったけど楽しかったです。 ・今日はザック先生と高下先生2人でしてもらったので、楽しかったです。中学校ではどんな先生といっしょに英語をするのかと思っていたので、元気な先生でうれしかったです。ぼくは、英語を線をつなぐゲームをもっとしたかったです。 	

5 中高連携授業「英語」（於：中学校）の記録

平成 22 年度の「連携型中高一貫教育校」への改編前後から、中高間で教員が互いの学校を訪問して授業を行うという「連携授業」を各教科で行ってきた。英語科では 8 月に千種高校史上初の常駐 ALT・David Berg を迎えたということもあり、平成 25 年度は 2 学期に 3 回、3 学期に 1 回、計 4 回の連携授業を行った。

授業内容の詳細については、9 月は新 ALT の自己紹介とアメリカ文化の紹介を中心にしつつその内容理解チェックの Q&A 及びゲームを行った。10 月は、高校授業で用いている優しい内容の教材を用いてゲームを中心に実施した。そして 11 月は、千種高校 2 年生のグアム島修学旅行を題材に、そのホットな話題を豊富な写真を用いて報告し、内容理解チェックの Q&A へと繋げた。1 月は、高校 1 年生の教材「英語表現 I」を用いて会話練習を行うとともに、英語の基本的な発音・発声練習及び英語の早口言葉や英語文化圏の童謡「マザーグース」の紹介を行った。

以下、その授業の様子を各回の写真によって報告する。

① 9月20日（金）		
② 10月25日（金）		
③ 11月29日（金）		
④ 1月31日（金）		

6 「英語授業研究会」(於：中学校・高校)の記録

(1) 第1回英語授業研究会：平成25年10月15日(火)13:15~15:30(於：千種中学校)

内容：5限 授業参観 千種中学校英語科 高下 愛 教諭

1年1組(男子12名 女子18名)

教科書：Sunshine English Course 1 [開隆堂]

単元：Program 6 “Yuki’s Trip to the United Kingdom”

6限 研究協議・講演「小中高一貫した英語教育の確立を目指して」

参加者：中学校 喜多校長 中田教諭 高下教諭 ALT Zachary Price

高校 原田教頭 松井教諭 田中講師

講師・指導助言者：稲岡章代先生(賢明女子学院中・高等学校教諭)

今年度は2学期に2回の「授業研究会」を中学校と高等学校で実施した。特に、第1回の研究会において、全国的にも非常に高名な「稲岡章代先生」を千種にお招きし、緒に就いたばかりの「千種町小中高英語教育研究」の現状をご覧いただき、英語科教員を対象にご講演を行っていただいた。先生がお選びいただいた講演のタイトル「小中高一貫した英語教育の確立を目指して～生き生きとした生徒づくり～」は、正に私たちが今目指していることを端的に表現していただいております、非常に時宜を得たものとなっている。

稲岡章代(いなおか ふみよ)先生 プロフィール

賢明女子学院中・高等学校教諭。姫路市立中学校英語科教諭(山陽・安室・神南・豊富)を経て、今年度4月より現職。2000年、英語教育界の最高賞である「パーマー賞」(語学教育研究所)受賞(兵庫県では加藤京子先生と共に2名のみ)、Teaching English through Englishの先駆的存在。「英語教育達人セミナー」等多くの英語授業研究会を主宰し、実践発表・研究発表・講演等枚挙にいとまなし。全国から授業見学者が列を成す、兵庫県英語教育界のリーダー的存在。

第1回英語授業研究会点描



Teaching Plan

Instructor: Takashita Megumi

1. Date: Tuesday, October 15, 2013
 2. Class: 1-1 (12 boys, 18 girls)
 3. Textbook: Sunshine English Course 1, Program 6 "Yuki's Trip to the United Kingdom"
 4. Allotment for this lesson:
- | | |
|------------|---|
| 1st period | Introduce new grammar pattern [My sister plays it too.] |
| 2nd period | Read Program 6, part 1 |
| 3rd period | Introduce new grammar pattern [Does Kenji like English?] |
| 4th period | Introduce developmental grammar pattern [What does he ~?] |
| 5th period | Read Program 6, part 2 |
| 6th period | Introduce new grammar pattern [She doesn't like pets.] |
| 7th period | Introduce Program 6, part 3 |

5. Objectives of this lesson:
- (1) To understand interrogative sentences of the third person singular present tense.
 - (2) To ask and answer questions from the teacher and other students using "What does ~?"

6. Teaching Aids: a picture card, sentence cards, worksheets

7. Teaching Procedure:

Procedure	Teacher's Activities	Students' Activities	4 Skills
1. Greeting	Greet students. Set the English class mood.	Greet the teacher.	Speaking
2. Warm-up	Review material from last class. Show a picture of a teacher (Mr.Torii) and introduce him to the students. Ask some questions using "Does he ~?" [Example] This is Mr. Torii. He lives in Kurozuchi. He has two children. He plays volleyball. T: Does he live in Kurozuchi? Ss: Yes he does. T: Does he have five children? Ss: No, he doesn't. T: Does he have two children? Ss: Yes, he does. ...	Listen to the teacher's talk. Answer the questions.	Listening Speaking
3. Introduction of the target sentence	Give the students more information about Mr. Torii. Ask questions using "What does he ~?" [Example] Mr. Torii likes fruits very much. He wants many fruits. He eats fruits every day. T: Does he like vegetables? Ss: No, he doesn't. T: Does he like fish? Ss: No, he doesn't. T: What does he like? Ss: He likes fruits. ...	Listen to the teacher's talk. Answer the questions.	Listening Speaking
4. Activity	There are six kinds of worksheets. Each sheet shows information about six people (like, want, have, play, speak) , but most of the information is missing. The students must ask each other "What does ~?" questions and fill-in all the boxes. Explain the content of the activity and demonstrate with a student. Have the students practice the important expressions and emphasize that the target sentence should be used. At the end of the activity, check the answers and lead the students in repeating the target sentence.	Listen carefully and try to understand the activity. Ask other students and complete all the boxes of the worksheets.	Listening Speaking Reading Writing
5. Consolidation	Give homework and briefly explain the next lesson.		

2 ほかの人(人)が好きなことについて、たずねたり答えたりできるようにしよう。

おぼえよう!

● Does Kenji like English?
 ● Yes, he does. / No, he doesn't. (doesn't=does not)

自分の好きなことや、他人の好きなことについてたずねるとき、Doesでたずねよう。

練習しよう!

3つの対話を聞いて、それぞれの人からなにが好きなかをしらべよう。

1. John () 2. Becky () 3. Tom ()

1. John: I like playing the shohokuho.
 2. Becky: I like speaking Japanese.
 3. Tom: I like speaking Japanese.

練習しよう!

4. Does John play the shohokuho?
 5. Yes, he does. / No, he doesn't.

John / play the shohokuho
 Becky / speak Japanese
 Tom / speak Japanese

練習しよう!

6. Does Ken speak English? / Does Ken like English?
 7. Yes, he does. / No, he doesn't.

Ken speaks English. Ken likes English.
 Becky speaks Japanese. Becky likes Japanese.
 Tom speaks Japanese. Tom likes Japanese.

6-2

What are these?
 They are pictures of Sherlock Holmes.
 He lives on Baker Street.
 Does he really live there?
 Yes, he does.
 No, he doesn't. Matt!
 Sorry. Just kidding.
 Oh, Matt.
 Look! That's the Sherlock Holmes Museum.

1. What does Matt say?
 2. Does Sherlock Holmes really live on Baker Street?

このページは、教科書の内容を基にした練習問題です。教科書のページを参照してください。

Information Gap Name: _____ Class: _____ Number: _____

★ This is a game. You should use the cards to play. You can use the cards to play.

	like	want	have	play	speak
Ryan		sway			
Emma					
Michael	book				English
Kenn				sway	
Takuya					Japanese
Miki			2 books		

Ex:

A: What does Ryan like?
 B: He likes sway.
 I don't know.
 A: What does Saku have?
 B: She has a dog.
 I don't know.

Information Gap Name: _____ Class: _____ Number: _____

★ This is a game. You should use the cards to play. You can use the cards to play.

	like	want	have	play	speak
Ryan					
Emma					
Michael					English
Kenn					
Takuya					
Miki					

Ex:

A: What does Ryan like?
 B: He likes sway.
 I don't know.
 A: What does Saku have?
 B: She has a dog.
 I don't know.

Information Gap Name: _____ Class: _____ Number: _____

★ This is a game. You should use the cards to play. You can use the cards to play.

	like	want	have	play	speak
Ryan					
Emma					
Michael					English
Kenn					
Takuya					
Miki					

Ex:

A: What does Ryan like?
 B: He likes sway.
 I don't know.
 A: What does Saku have?
 B: She has a dog.
 I don't know.

Information Gap Name: _____ Class: _____ Number: _____

★ This is a game. You should use the cards to play. You can use the cards to play.

	like	want	have	play	speak
Ryan					
Emma					
Michael					English
Kenn					
Takuya					
Miki					

Ex:

A: What does Ryan like?
 B: He likes sway.
 I don't know.
 A: What does Saku have?
 B: She has a dog.
 I don't know.

Information Gap Name: _____ Class: _____ Number: _____

★ This is a game. You should use the cards to play. You can use the cards to play.

	like	want	have	play	speak
Ryan					
Emma					
Michael					English
Kenn					
Takuya					
Miki					

Ex:

A: What does Ryan like?
 B: He likes sway.
 I don't know.
 A: What does Saku have?
 B: She has a dog.
 I don't know.

平成25年度
千種町英語教育研究会

小中高一貫した英語教育の確立を目指して
～いきいきとした生徒づくり～

賢明女子学院中・高等学校
稲岡 章代
INAOKA FUMIYO



Chants

Tick, tock, tick, tock,
what time is it?

School time, study time.
It's nine o'clock.

Tick, tock, tick, tock,
what time is it?

今日の中学校での英語授業においては、小学校における外国語活動で育まれた素地を活かし、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の統合を図りながらコミュニケーション能力を育成することが求められています。

そのため授業では目標に合った活動内容・方法・学習形態などに工夫を凝らします。

そうした授業を通して、生徒は学ぶ意欲を高め、自己表現を楽しみ、力を伸ばしていきます。

今日は後半に授業の実際も紹介しながら、授業づくりについて一緒に考えたいと思います。



Chants

What time do you get up?

I get up **at five**.

Wow! That's early!

I get up at seven.

What time do you go to bed?

I go to bed **at one**.

Wow! That's late!

I go to bed at ten.

(稲岡作)

コミュニケーションに対する 態度や能力の育成

(1) クラスコミュニティを育てる

(2) 自分の英語（ことば）を使う機会を持たせる

I'm **pizza**. I'm your friend.
When you're hungry, please eat me.
I'm pizza. Nice to meet you.

☆☆☆☆

I'm **coffee**. I'm your friend.
When you're thirsty, please drink me.
I'm coffee. Nice to meet you.

☆☆☆☆

I'm a **book**. I'm your friend.
When you're free, please read me.
I'm a book. Nice to meet you.

☆☆☆☆

I'm a **robot**. I'm your friend.
When you're busy, please use me.

I'm a robot. Nice to meet you. (稲岡作)

I have a question.

What makes you happy?

Your smile makes me happy.
I love your smile.

I have a question.

What makes you sad?

When I fail in tests,
it makes me sad.

I have a question.

What makes you angry?

When Mom says, "Study hard,"
it makes me angry.

(基礎英語チャンツで楽習 福岡校, NHK)

③ I Like Kendama (P.17)

Emma (1) do you have in your hand?

Ken: I (2) a shamisen pick.

Emma: Shamisen? Cool.

What (3) do you play?

Ken: I play traditional (4) music.

But I (5) play it well.

1	_____
2	_____
3	_____
4	_____
5	_____

/5

◆練習

エマ：あなたは何を持っていますか？
 ケン：はくは三味線のピックを持っています。
 エマ：三味線ですか？ かわいいですね、どんな音楽を弾くのですか？
 ケン：伝統的な日本の音楽を弾きます。でも、上手に弾けません。

Practice Box

Emma
 Ken
 pick
 shamisen
 music
 play
 well

About This Page



いきいきしたペア活動とは？

- みんなで活動している
- 互いに確かめ合い、励まし合い、高め合っている
- 表情豊かで楽しそう
- 相手を思いやっている
- 学んだことを積極的に使っている
- etc.

Where do you

The country I want to visit is Italy.
 Why?
 Because I have never been there and I'm interested in Italy.

First, I'd like to eat Italian food. So maybe pizza and pasta.
 I like them because they are delicious.
 I watched all that on TV.
 The food is especially like in margherita pizza and meat sauce spaghetti.
 I recommend them.
 I want to see people making pizza and spaghetti. It's so good at watching, but I want to make it.

Next, I want to visit Florence.
 I heard it is the art city.
 So, I want to see art.

Third, I want to visit a building called the Leaning Tower of Pisa. It looks beautiful.
 I don't know why it is leaning.
 So, I want to know the reason.
 And, I want to go up the tower.
 I can see beautiful view there.
 I want to visit the tower too.

Fourth, I'd like to go to Venice.
 Look! The city is very nice.
 I want to see Venice's Central Canal.

And, I want to see Venice International Film Festival.
 I have watched it on TV.
 There are many interesting scenes to watch.

オーラル・インタラクション と Teacher Talk

- (1) 生徒に語りかける態勢
- (2) 題材の選択
- (3) 視聴覚教材の活用
- (4) 発問の工夫
- (5) 生徒の応答を活用
- (6) 生徒の興味や集中力を持続させる工夫
- (7) 後に続く活動へのレディネス

I'm interested in movies.
 I think Japanese movies are so interesting as American movies.
 Besides, I want to see famous people.
 It's like to like pictures with them and get their autograph.

First, I want to visit the fountain of "Fons".
 It looks beautiful to see.
 I want to throw the coin.
 I want to eat an orange because there is an ice cream shop near by.

Next, I want to visit the Vatican.
 I know the Vatican is the smallest country in the world.

I want to see something called Michelangelo.
 It has a history and an art museum.
 I want to read books there. I like reading.
 So, I should learn Italian language.
 And, I want to see many beautiful pictures.
 They are famous.

I think Italy is a great place because there are many things to do. I don't want to go!

Italy
 fountain
 coin
 eat
 ice cream
 shop
 near
 by
 smallest
 country
 in
 the
 world
 museum
 books
 language
 pictures
 famous

want to go?

次の英文はJenniferとあなたとの会話の一部です。あなたならJenniferの問いかけに対してどのように答えますか。①には家族や友だち、先生などの名前を書き、②には20語程度で英文を書きなさい。コンマやピリオドなどの記号は添字に入りません。全体にまとまりのある文章になるように工夫しなさい。

Jennifer: It's important for us to say "thank you" to people around us. Do you want to say "Thank you" to anyone?

Student: Yes, I want to say "Thank you" to ①

Jennifer: Why?

Student: ②

My English Teaching Theory

SAFE ENVIRONMENT(居場所のある学び場)

- Everyone in the class uses English.
- Everyone feels safe in a warm, friendly environment.
- Everyone creates an environment for communication with his / her classmates and teachers through English.

一番大切なことは、
生徒と一緒に
英語で授業を行なっていくことであろう。

教師も生徒も
My English を使って、
自分の個性や創造性を大切に、
授業づくりをしていきたい。

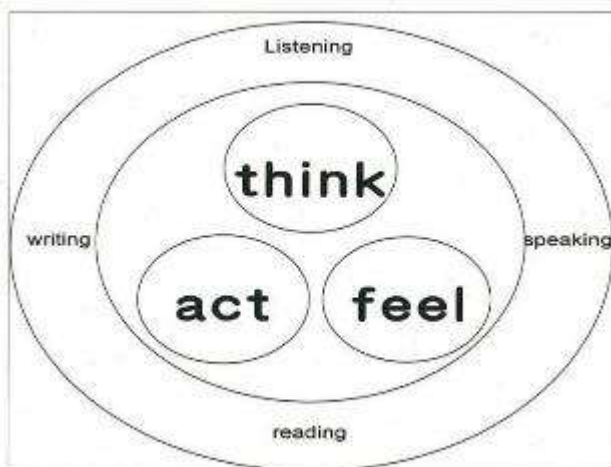
FEELING OF BELONGING

(「1人じゃない」という所属感)

- Everyone is happy to belong to this class.
- Everyone is ready to work with his / her classmates.
- Everyone supports and helps each other.

FEELING OF SELF-AFFIRMATION(自己肯定感)

- Everyone thinks he / she can do it.



TEACHER'S SPIRIT OF LOVE

(生徒とつながりを持つ教師)

- L --- Look and listen to every student carefully
- O --- Open-minded to understand every student more
- V --- Volunteer to help every student have confidence
- E --- Enjoy the class together

What's your teaching theory?

(2) 第2回英語授業研究会：平成25年12月2日（月）13:10～15:00（於：千種高等学校）

内 容：5限(13:10～14:00) 公開授業参観 [選択教室2][2-1HR教室]

松井利澄 教諭 英語Ⅱ（2年チャレンジコース）[男子6名 女子3名]

田中孝英 講師 英語Ⅱ（2年ベーシックコース）[男子9名 女子7名]

6限(14:10～15:00) 研究協議（会議室）

参加者：中学校 喜多校長 中田教諭 高下教諭

高 校 原田教頭 松井教諭 田中講師 ALT David Berg

※5限の授業参観には、千種小学校から田住校長先生と平田先生(5年生担任)の参加があり、千種町内の小中高の教員が揃う形での公開授業となった。

この回の英語授業研究会の意義は、小中高の教員が初めて一堂に会して高校の英語授業を参観し、普段ご覧になっていただくことのない本校の授業を小学校の先生方に直に見て体験していただいたことにある。英語教育の方法論云々ではなく、実際に千種高校の授業を見ていただき、少人数授業の在り方や生徒に興味を持たせながら授業を進める様子を、初めて驚きの目を持って見ていただくことができた。この意義は大きいと考えている。

千種高校は、1学年30数名のクラスを、ほとんどの教科において3つのコース（チャレンジ・ベーシック・アクティブ）に分けて実施している。教科指導であれ、生徒指導であれ、個々の生徒を大切にしたいきめ細やかな指導を校是としているのである。

第2回英語授業研究会点描



1. Date & Period 5th period, Monday, December 2nd, 2013
2. Class 2-1(Challenge Course), 9 students
3. Textbook BIG DIPPER ENGLISH COURSE II (Suken Shuppan)
4. Allotment (LESSON 3 “The Magic of Color”)

1st Period : Introduction, Comprehension (p.28~29,38)

2nd Period : Part 1 (p.30~31) (**today**)

3rd Period : Part 2 (p.32~33)

4th Period : Part 3 (p.34~35)

5th Period : Part 4 (p.36~37)

6th Period : Review (p.38~39)

5. Viewpoints of the teaching materials, students, and teaching methods

- (1) Viewpoint of the teaching materials

This lesson is about the magic of color. A color has various psychological effects on every person. Students can be attracted to the content easily. Target grammars are passive clause, and present perfect.

- (2) Viewpoint of the students

The class is called “Challenge Course,” so they are highly motivated in studying English. However, some of the students feel that studying English is difficult and they are not so good at English. But many of them tend to concentrate in studying.

- (3) Viewpoint of the teaching method

In this lesson we use the style of what we call “Team Teaching.” The ALT will talk about the meaning of colors in the American culture so that the students can understand the differences of the images of colors between cultures. The JTE induces the imagination of the students so that it helps understand the variety of cultures.

6. Aims of this lesson

- ① To learn new words and phrases
- ② To understand the episodes in the passage
- ③ To understand sentence patterns
- ④ To get used to English rhythm through reading the textbook aloud

7. Evaluation of this lesson

- ① interest and attitude
- ② expression
- ③ understanding


8. Teaching procedure

Procedure	Activities of the students	Activities of the teachers	Notes
Warming-up (7mins)	Greet the class and answer what teacher asks them. WPM(Word-Per-Minute) Speaking practice	Greet and ask some questions which are relevant to today's lesson. Give students today's topic. (ALT)	Today's topic is about their favorite colors.
Introduction and more information (3mins)	Watch the pictures of two rooms in different colors. Find differences and give their own opinions.	Show the pictures of two rooms in different colors. Ask some questions.	Instruction and ask some questions in English
Checking new words and phrases (5mins)	Pronounce the new words and phrases. Check the Japanese meanings.	Confirm the meanings and pronounce the new words and phrases and make the students repeat them (ALT).	
Reading comprehension (27mins)	Listen carefully to the teacher's reading aloud and make slashes between phrases. Read aloud once and think about the questions. Read each sentence and translate them into Japanese.	Check the students' making slashes as the teacher reads the textbook aloud. Make the students read aloud and answer some questions about the content in Japanese. Help students translate the sentences if they have difficulties translating, and explain the points in the textbook, asking some questions of the class. Check their interpretations students had translated as homework and correct them if necessary.	Instruction mainly in Japanese
Reading Practice (5mins)	Read aloud what they have studied and think of contents which they have studied.	Walk around the class, checking the students' pronunciation.	Read and Look up
Ending (3mins)	Confirm the content of the next lesson.	Assign homework.	

LESSON 3

The Magic of Color

私たちの周りには、色があふれています。無意識に選ばれる色や後付けな色、意図した色や偶然の色、自分に馴染む色や馴染まない色、色ほど自由に私たちの生活の中で使われているのでしょうか。




Listen & Check

英文を聴いて、どの色を塗ったものが正しいか。

1. _____ 2. _____ 3. _____

a. _____ b. _____ c. _____

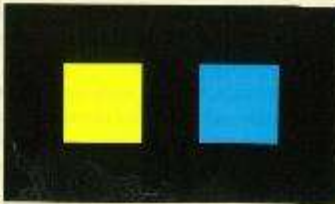


notes [notebook]
attention [attention] 注意 **beat** [beat] 打つ

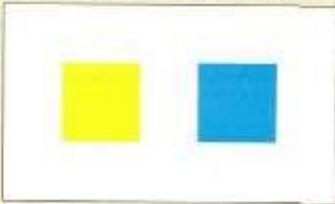
Do You Know?

② Wonders of Colors
 Q Which square looks bigger, blue or yellow?

a.



b.



「人によって見え方が異なる場合があります。」

身の周りの色には、どのような心理的効果がありますか。

1

everyday [ˈevriːdɪ] 日常的
random [ˈrændəm] 偶然
psychological [ˌsaɪkəˈlɒdʒɪkəl] 心理学的
psychology [ˌsaɪkəˈlɒdʒi] 心理学
randomly [ˈrændəmli] 偶然に
curtain [ˈkɜːtən] カーテン
flimsy [ˈflɪmzi] 薄い
heavy [ˈheɪvi] 重い

We see many colors in everyday life. But are they all chosen at random? In fact, many are chosen for their psychological effect.

For instance, there are warm colors like red, orange, and yellow and cold colors like blue and blue-green. In one experiment, one room was painted all in a warm color and another in a cold color. When they opened the door to each room, people said they felt a difference of three to four degrees in temperature.

Also, there are heavy colors and light colors. The curtains used in theaters are usually dark red. If light yellow is used, we feel that the curtains are flimsy. Pale colors make things look lighter, while dark colors make them look heavier.

7 another 他者とは何かを指す言い換えか。
 2 at "random": It was hard to find my name because hundreds of names were listed at random.
 4 for "instance": I like team sports. For instance, baseball, soccer, and basketball.
 4 warm color 暖色 5 cold color 冷色 6 blue-green 青緑 13 white: Some people like tea, white clothes prefer coffee.

Hints for Understanding

敬詞の形 ①
 受け身の敬語 <be動詞+過去分詞> 「～される、～されている」

12 In fact, many **are chosen** for their psychological effect.
 敬語 We choose many for their psychological effect.

16 In one experiment, one room **was painted** all in a warm color.
 敬語 They painted one room all in a warm color.


Read It Through

① 本文の内容と合っているものにはT、合っていないものにはFと答えなさい。

- Colors are chosen at random in our daily life.
- There are warm colors and cold colors.
- They prepared a warm room and a cold room for an experiment.
- We feel that dark colors are heavier than pale colors.

② 次の間違いを訂正しなさい。

- 本文から暖色の例を一つ、冷色の例を二つ挙げなさい。
- 実験で、観客のカーテン・幕の色にどんな違いを感じたと考えられますか。
- 暖色の幕の多くが暖い色であるのには、どんな意味があると使いますか。



幕の色が暖色

1. Date & Period 5th period, Monday, December 2nd, 2013
2. Class 2-1(Basic Course), 16 students
3. Textbook BIG DIPPER ENGLISH COURSE II (Suken Shuppan)
4. Allotment (LESSON 10 “Continent Without Borders”)

1st Period : Introduction, Listening (p.116~117)

2nd Period : Part 1 (p.118~119)

3rd Period : Part 2 (p.120~121)

4th Period : Part 3 (p.122~123)

5th Period : Grammar Point (**today**)

6th Period : Review of Lesson 10

5. Viewpoints of the teaching materials, students, and teaching methods

(1) Viewpoint of the teaching materials

This lesson is about the Continent of Antarctica. Through learning about the Antarctica, students are expected to think about world peace.

Target grammar is “so that ~ can ...” and Participle construction.

(2) Viewpoint of the students

The class is called “Basic class.” Some of the students feel that studying English is difficult and they are not so good at English. Fortunately though, most of them can concentrate on studying and do their best.

あ (3) Viewpoint of the teaching methods

Teachers should check whether the students can understand the content of the textbook and Grammar handouts to find out their degree of their understanding, using some kinds of checking methods. It is also important to motivate them to study English positively.

6. Aims of this lesson

- (1) To learn new words
- (2) To understand the episodes in the story
- (3) To understand the grammar points
- (4) To get used to English rhythm through reading the textbook aloud

7. Evaluation of this lesson

- (1) interest and attitude
- (2) expression
- (3) understanding

8. Teaching procedure

Procedure	Activities of the students	Activities of the teacher	Notes
Introduction and Checking vocabulary (8mins)	Greet the class and make review of the vocabulary with their partner, using handouts and the Flash Cards.	Greet and return the small test. Make review of the vocabulary and check the understanding with the Flash Cards.	Instruction in English
Explaining Grammar① (15mins)	Read and write answers on the handout and check the questions, reading each sentence aloud.	Give students a handout and explain the structure “so that ~ can...” Check the answers, and make students repeat the sentences.	Instruction in English and Japanese
Explaining Grammar② (15mins)	Read and write answers on a handout and check the questions, read each sentence aloud.	Explain the grammar point, “Participle construction” Check the answers, and make students read the sentences aloud.	Instruction in English and Japanese
Writing (10mins)	Look at the pictures on the blackboard and listen to teacher’s explanation. Answer the teacher’s questions about each picture, and make the compositions of each picture on the handout. Check the answers together. Some students write the answers on the blackboard. Read each sentence aloud, repeating after the teacher.	Show the students some pictures on the blackboard and give some explanations on them. Ask the students some questions on the pictures. Make the students work on English Composition about each picture by using “Participle construction” on the handout. Make students write the answers on the blackboard and read each sentence aloud.	Instruction mainly in English
Ending (2mins)	Confirm the task in the next class.	Assign homework. (small words test)	

Continent Without Borders

南極大陸には「国境線が、平均日中の日照時間と一致する」とあり、そこには地味な国境線も表示されています。多くの国々が領有しています。国境と領土力の両方ともない大陸の国境とはどんなところでしょうか。

Listen & Check

英文を聴いて、南極洲に到着した人物に○をつけなさい。

1.

Roald Amundsen
()

2.

Shreeve Nobu
()

3.

Robert Falcon Scott
()

continent [ˈkɒntɪnənt] / 陸地 [land] (continent)

explore [ɪkˈsplɔːr] / 探検する [explorē] (explore) 探検家 [explorer]

South Pole [saʊð ˈpəʊl] / 南極 [nan kyoku] (south pole) 探検する [explorē]

Do You Know?

①Nature in Antarctica
南極大陸の自然として美しさを絶賛されています。

1.

a large piece of ice in the sea
()

2.

a big snowdrift with strong winds
()

3.

bands of light in the night sky
()

[aurora / iceberg / blizzard]

②What is Antarctica Like?

面積：1,388万km²(日本の約37倍)
 現在人口：常時約4,000人
 多摩約1,000人
 年平均気温：-10.6℃(以下 昭和基地での記録)
 最高気温：10.0℃(1977年)
 最低気温：-45.3℃(1982年)

Antarctica [æntɪˈɑːktɪkə] 南極大陸 [nan kyoku] [continent] 探検 [explorē] 探検家 [explorer] 探検 [explorē] 探検家 [explorer] 探検 [explorē] 探検家 [explorer] 探検 [explorē] 探検家 [explorer] 探検 [explorē] 探検家 [explorer]

[授業該当ページ]

Continent Without Borders

南極大陸には「国境線が、平均日中の日照時間と一致する」とあり、そこには地味な国境線も表示されています。多くの国々が領有しています。国境と領土力の両方ともない大陸の国境とはどんなところでしょうか。

Listen & Check

英文を聴いて、南極洲に到着した人物に○をつけなさい。

1.

Roald Amundsen
()

2.

Shreeve Nobu
()

3.

Robert Falcon Scott
()

continent [ˈkɒntɪnənt] / 陸地 [land] (continent)

explore [ɪkˈsplɔːr] / 探検する [explorē] (explore) 探検家 [explorer]

South Pole [saʊð ˈpəʊl] / 南極 [nan kyoku] (south pole) 探検する [explorē]

Hints for Understanding

so that ~ can ...
 so that ~ can ... 「～が、できるように」
 ⑫ They put flags on their snowmobiles so that they can find them after heavy snowfalls.

Read It Through

⑬ 本文の内容と合っているものは○、合っていないものは×と答えなさい。

- Antarctica is covered with snow and ice that has never melted.
- The Syowa Station is always 50°C below zero.
- Heavy snowfalls sometimes hide the snowmobiles.

⑭ 次の問いに答えなさい。

- なぜ南極の車や機材は多量に必要とされるのでしょうか。
- 重い雪の中、探検隊はどのような対策をしていますか。
- 探検隊が南極まで行くのはなぜか、またそれは何のために必要か。

Listen & Repeat

hall(広間)でfall(落ち)? [hallとfall]

●【日本語】は「hall」で「広間」です。「fall」は「落ち」です。この二つは全く関係ありません。<hall (hall) / fall (fall)>

●【日本語】は「hall」で「広間」です。「fall」は「落ち」です。この二つは全く関係ありません。<hall (hall) / fall (fall)>

●【日本語】は「hall」で「広間」です。「fall」は「落ち」です。この二つは全く関係ありません。<hall (hall) / fall (fall)>

⑮ 自分が発音できるように

1. hall / hall 2. fall / fall 3. feel / feel

24

[補助教材プリント]

Lesson 9 文法① 【so that ~can...「～ができるように」】

例① They put flags on their snowmobiles (X) they () find them.
 彼らは見つけることができるように、スノーモービルのトに旗を立てた。

例② I bought a guidebook so that I could enjoy the trip.
 私は旅行を()に、ガイドブックを買った。

1. 日本語に合うように()内の語を正しく空白に埋めなさい。

(1) 私は目の見えないように今朝早く起きた。
 I (so / could / got up / that / I / see) early this morning / the sunrise.
 I _____

(2) 母は仕事が片付けられるようにコンピュータの使い方を覚っている。
 My mother (a job / she / is learning / a computer / so / how to use / that) can / get).
 My mother _____

(3) マイクは試験に受かるように一生懸命勉強した。
 Mike (that / hard / so / studied / he / got / could / the exam).
 Mike _____

(4) 父はテレビでサッカーの試合が見られるように早く起きた。
 My father (the soccer game / early / so / came / home / that / he / could / watch) on TV.
 My father _____

2. 次の英文を日本語に直さない。

(1) My grandfather put on his glasses so that he could see the map.
 (), 祖父は眼鏡をかけた。

(2) Let's take an express train so that we will arrive at Hanoi by ten.
 (), 急行列車に乗りましょう。

(3) You must turn down the TV so that our baby can sleep well.
 (), テレビの音量を下げないといけないよ。

Lesson 9 文法② 【現在分詞の分詞構文】

現在分詞(ing形)を用いて、「～とき」・「～しながら」・「～ので」などの3つの意味を表す。

① 時: 「～とき」
 Opening the curtains, / we saw a beautiful sunrise.
 カーテンを()に、私たちは美しい日景を見た。

② 付帯状況: 「～しながら」
 Listening to music, / I was cleaning my room.
 歌の合奏を(), 部屋を片付けていた。

③ 理由: 「～ので」
 Having no money, / I didn't buy the book.
 お金を(), 私はその本を買えなかった。

1. ()に入る適切な動詞を下の動詞より選び、正しい形にして書き入れなさい。
 また、それぞれの英文を日本語に直さない。

(1) () TV in the living room, I fell asleep.
 日本語: _____

(2) () hungry, Ken went to a fast food restaurant.
 日本語: _____

(3) () "Hello," the man shook hands with me.
 日本語: _____

(4) () the top of the mountain, we could see the whole town.
 日本語: _____

動詞 watch reach sky feel

2. 次の英文を日本語に直さない。

(1) Singing a song, Jim enjoyed driving a car.
 (), ジムは車の運転を楽しんだ。

(2) Travelling in Germany, I visited a lot of old castles.
 (), 私は多くの古城を訪ねた。

(3) Reading a newspaper, he had breakfast.
 (), 彼は朝食を食べた。

(4) Feeling a little tired, we took a coffee break.
 (), 私たちはコーヒーブレイクをとった。

2年ベーシック 英語Ⅱ 単語プリント Lesson 10 Part 4-①

treaty: 条約		
sign: ～に調印する・署名する		
promote: ～を促進する		
cooperation: 協力		
inhibit: ～を抑制する		
military: 軍事的な		
notably: 特筆的		
national: 国の・国家的		
operation: 業務・作業活動		
joint: 共同の		
project: 事業		
carry out: ～(計画)を実行する		

2-1 Name _____

2年ベーシック 英語Ⅱ 単語プリント Lesson 10 Part 4-②

successfully: うまく		
search for: ～を探索する		
meteorite: 隕石		
research: ～を調査する・研究する		
in the future: 将来は		
hope: ～を望む		
welcome: 歓迎する		
infectious: 伝染的な		
freely: 自由に		
worry about: ～を心配する・気にする		
border: 国境		
model: 見本		

2-1 Name _____

7 資料①：千種町幼少中高連携一貫教育実践記録所収「小中連携英語科学習系統表」

第5学年 千種中学校区 小中連携英語科学習系統表

単元名	単元目標	表現	語彙	教材、概要、	中学校との関連
Lesson 1 Hello! ② 言語、挨拶	・積極的に挨拶をしようとする。 ・英語での挨拶や自分の名前を言 ・世界にはいろいろな言語があること ・世界を知る。	Hello. What's your name? My name is... Thank you. Goodbye.	hello, name, what, your, my, is, you, thank, goodbye	(☆)教材、★概要、○扱われる英文、◎英文の形式、●題材のねらい) Let's Start (1年) ★①新しい友だちをつくらう ②自分の名前を覚えてみる ③自分の名前を覚えてみる ④自分の名前を覚えてみる ⑤自分の名前を覚えてみる ○Hello, everyone. How are you? My name is ~. Nice to meet you. Goodbye, everyone. See you. ●bed, dog, table, cat, bag, ball, etc. I like ~. I can ~. walk, run, stop.	中学校との関連 扱われる英文、◎英文の形式、●題材のねらい)
Lesson 2 I'm happy. ② ジェスチャー 感情・様子	・表情やジェスチャーを積極的に伝え ・ジェスチャーを積極的に伝えたり ・ジェスチャーを積極的に伝えたり ・ジェスチャーを積極的に伝えたり ・ジェスチャーを積極的に伝えたり	How are you? I'm fine! happy.	happy, fine, sleepy, hungry, how, are, I, am, (I'm)	(PROGRAM 2, 1年) ☆アメリカからの転校生 ★アラスカからの転校生のマイク・ブラウンから自己紹介を受けてあいさ つをしていく場面。 ○Hi, I am Saki. Oh, you are Saki. I'm Tom. ◎Are you a Giants fan? Yes, I am. No, I'm not. I'm not a baseball fan. ●①対面 ②対面 ③対面 ④対面 ⑤対面 ★①名前を覚えてみる ②名前を覚えてみる ③名前を覚えてみる ④名前を覚えてみる ⑤名前を覚えてみる ●①名前を覚えてみる ②名前を覚えてみる ③名前を覚えてみる ④名前を覚えてみる ⑤名前を覚えてみる	中学校との関連 扱われる英文、◎英文の形式、●題材のねらい)
Lesson 3 How many ~? ③ 数 身の回りの物	・積極的に数を数えたり、尋ねたり ・1~5の数を数えたり、尋ねたり ・1~5の数を数えたり、尋ねたり ・1~5の数を数えたり、尋ねたり ・1~5の数を数えたり、尋ねたり	How many pencils/dogs/cats-? One, two, three -twenty.	how, many, one ~ twenty, cat(s), dog(s), pencil(s), apple(s)	(PROGRAM 4, 1年) ☆リサイクル活動 ★①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動 ○①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動 ◎①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動 ●①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動 ★①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動 ●①リサイクル活動 ②リサイクル活動 ③リサイクル活動 ④リサイクル活動 ⑤リサイクル活動	中学校との関連 扱われる英文、◎英文の形式、●題材のねらい)
Lesson 4 I like apples. ⑤ 思物 動物 食べ物 スポーツ	・好きなものを表現したり、尋ねたり ・好きなものを表現したり、尋ねたり ・好きなものを表現したり、尋ねたり ・好きなものを表現したり、尋ねたり ・好きなものを表現したり、尋ねたり	I like apples. I don't like bananas. Do you like baseball? Yes, I do./ No, I don't.	I, you, like, do, yes, no, not, apple(s), strawberry(ies), cherry(ies), peach(es), grape(s), kiwi, fruit(s), lemon(s), banana(s), orange(s), pineapple(s), melon(s), ice cream, milk, juice, baseball, snorer, swimming, basketball, bird(s), rabbit(s), dog(s), cat(s), spider(s)	(PROGRAM 3, 1年) ☆ウツド先生がやってきた ★①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた ○①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた ◎①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた ●①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた ★①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた ●①ウツド先生がやってきた ②ウツド先生がやってきた ③ウツド先生がやってきた ④ウツド先生がやってきた ⑤ウツド先生がやってきた	中学校との関連 扱われる英文、◎英文の形式、●題材のねらい)

第6学年 千種中学校区 小・中連携英語科学習系統表

単元名 時数	単元目標	表現	語彙	(★題材、★概要、○扱われる英文、◎文の形式、●題材のねらい)
Lesson 1 Do you have "a"? ④ 言語 文字	・ 結構的にある物を持ちたいかどうかを尋ねたりする。 ・ 31 ~ 100 の数の言い方やアルファベットのが数字があるかどうかを尋ねる表現に慣れ親しむ。 ・ 記号には様々な文字があることを知る。	Do you have "a"? Yes, I do. / No, I don't.	アルファベット a ~ z, do, you, I, have, yes, no, don't, one ~ thirty, forty, fifty, sixty, seventy, eighty, ninety, hundred.	★ 題材のねらい (PROGRAM 6・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・1年生) Do you play <u>abogt</u> ? Yes, I do. My sister plays it too. ① 対話 相手の人とのことを表現する ② 対話 相手の人とのことを表現する ③ 対話 相手の人とのことを表現する ④ 対話 相手の人とのことを表現する ★ 概要 (PROGRAM 6・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・1年生)
Lesson 2 When is your birthday? ④ 行事 月	・ 結構的に誕生日を尋ねたり、誕生日を尋ねたりしよとす。 ・ 英語での月の言い方や、誕生日を尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・ 世界と日本の祭りや季節の趣意に気をつける。	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	when, is, your, birthday, my, January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, 序数 (自分の誕生日)	★ 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 7・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 7・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 7・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 7・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 7・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 7・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 7・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 7・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 7・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 7・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 7・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 7・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 7・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 7・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 7・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 7・1年生)
Lesson 3 I can swim. ④ スポーツ 動作	・ 結構的に友達に「できること」と尋ねたり、自分の「できること」と尋ねたりしよとす。 ・ 「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 ・ 英語や人それぞれの違いを知る。	I can't swim. Can you cook? Yes, I can./No, I can't.	can, can't (can not), play, swim, cook, ride, unicycle, table, tennis, badminton, basketball, soccer, baseball, recorder, piano, a, the	★ 題材のねらい (PROGRAM 8・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 8・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 8・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 8・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 8・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 8・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 8・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 8・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 8・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 8・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 8・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 8・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 8・1年生) ★ 概要 (PROGRAM 8・1年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 8・1年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 8・1年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 8・1年生)
Lesson 4 Turn right ④ 建物 道案内	・ 結構的に道を尋ねたり、道案内をしよとす。 ・ 目的地的な行き方を尋ねたりする表現に慣れ親しむ。 ・ 英語と日本語では、建物の表し方が違うことに気付く。	Where is the station? Go straight. Turn right/left.	turn, right, left, go, straight, stop, to, where, park, school, flower, shop, hospital, book, store, restaurant, supermarket, fire, station, police, convenience, department, post, office, station	★ 題材のねらい (PROGRAM 6・2年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・2年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・2年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・2年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・2年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・2年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・2年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・2年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・2年生) ★ 概要 (PROGRAM 6・2年生) ○ 扱われる英文 (PROGRAM 6・2年生) ◎ 文の形式 (PROGRAM 6・2年生) ● 題材のねらい (PROGRAM 6・2年生)

<p>Lesson 5 Let's go to Italy. ④ 世界の国々 世界の生活</p>	<p>I want to go to France. Where do you want to go? Let's go.</p> <p>・ 自分がはつきり振る舞う国について意見を述べたい。友達にしようとする。 ・ 行った国について表現を慣れ親しむ。 ・ 世界には様々な文化があることに気付く。</p>	<p>I, you, do, like, want, to, go, where, play, see, eat, Italy, Japan, China, Korea, Brazil, Egypt, Australia, France, India, America, Spain</p>	<p>★ リサイタル活動 (PROGRAM 4・1年生) ★ ベットボルトのキヤップを貰って送ると、筑波大学の子供たちを教えることについて学校で話し、実際にリサイタルのキヤップに参加する。 ● ①対話 リサイタルを、NPOにベットボルトのキヤップを送り、発展途上国の子どもたちの命を救う活動に取組む。 ● ②対話 上国の子どもたちの命を救う活動が全国的に盛んである。大事な資源を再評価して、積極的にリサイタル活動について語ること。 ★ A Work Experience Program (PROGRAM 6・2年生) ★ ①対話 武蔵、藤子が職業体験について語る。 ○ I want to be a doctor. Do you want to help sick people? ○ I want to be a doctor. Do you want to help sick people? ○ But I want something to drink. ● ①対話 自分のしたいことを言う ● ②対話 行動の目的を言う ● ③スピーチ ~するするための表現 ★ So Many Countries, So Many Customs. (PROGRAM 10・2年生) ★ ①対話 友だちに外国での体験談を話す。 ● ②対話 友だちと外国での体験談を話す。</p>
<p>Lesson 6 What time do you get up? ⑤ 世界の国々 世界の生活</p>	<p>I get up at seven. What time do you go to bed?</p> <p>・ 積極的に自分の一日を紹介したり、友達の日を聞き取ったりし、よきとよきを聞き取ったり、生活の表す時間や、一日の生活に慣れ親しむ。 ・ 世界には様々な文化があることに気付く。 ・ 世界の生活の様子に興味をもつ。</p>	<p>I, you, do, get, up, eat, lunch, breakfast, dinner, take, a, bath, go, to, bed, dinner, watch, clean, TV, play, piano, study, what, time</p>	<p>★ アメリカからの転校生 (PROGRAM 2・1年生) ★ マイアミの日本での学校生活スタター ○ Hi, I am Saki. Oh, you are Saki. I'm Tom. ○ Are you a Giants fan? Yes, I am. No, I'm not. I'm not a baseball fan. ● ①対話 互いに名前を言う。 ● ②対話 出身を言う。 ● ③英語でどのよう自己紹介をするかを学習させる。 ★ 船のイギリス旅行 (PROGRAM 6・1年生) ★ ①対話 船の人のことを質問する。 ○ Do you play chess? Yes, I do. My sister plays it too. ● ①対話 船の人のことを質問する。 ● ②対話 船の人のことを言う。</p>
<p>Lesson 7 We are good friends. ⑥ 世界の国々 日本の文化</p>	<p>We are good friends. We are strong and brave.</p> <p>・ 積極的に英語で物語の内容を伝えようとする。 ・ まま内容がわかり、場面について、リアリティをもつ。 ・ 世界の物語に興味をもつ。</p>	<p>peach, boy, monkey, dog, bird, friend(s), strong, brave, good, fine, happy, hello, go, we, are, I am, how, you, please, here, see, OK, let's (let, us)</p>	<p>★ Flowers in the Classroom (PROGRAM 11・1年生) ★ 花の世話をしている時の様子。 ★ Review Reading (読み物教材、1年生) ★ マジックの食べ物 ★ From PET Bottles to Spaceships ★ Mother Teresa ★ 1910年に生まれたマザー・テレサの人生を劇演にまとめた伝記</p>
<p>Lesson 8 What do you want to be? ④ 職業 将来の夢</p>	<p>I want to be a singer. What do you want to be?</p> <p>・ 積極的に自分の将来の夢について友達に話したい。 ・ 職業に就きたいことを知り、語りたい。 ・ 世界の子供たちと日本の職業を交流して、代英の成長を促す。 ・ 未来の夢を共有する。</p>	<p>I, you, what, do, want, to, be, (singer), teacher, doctor, farmer, poet, chef, florist, singer, firefighter, soccer player, artist, bus driver, cabin attendant, vet, zookeeper, comedian, baker, dentist</p>	<p>★ ウツド先生がやってきた (PROGRAM 3・1年生) ★ ALTのMs.Wendが教室で自己紹介をする ○ I like music. I like music too. I play the piano. ○ Do you eat sushi? Yes, I do. No, I don't. I don't like sushi. ● ①スピーチ 好きなことを言う。 ● ②対話 好きなことを言う。 ● ③英語で自己紹介ができるようにする。 ★ A Work Experience Program (PROGRAM 6・2年生) ★ ①対話 武蔵、藤子が職業体験について語る。 ○ I want to be a doctor. Do you want to help sick people? I want to see my aunt. ○ But I want something to drink. ● ①対話 自分のしたいことを言う ● ②対話 行動の目的を言う ● ③スピーチ ~するするための表現 ● ④不定詞を使って、自分のしたいことを表現する。 ★ If You Wish to See a Change (PROGRAM 7・2年生) ★ 環境保護のために活動するセヴァンのの、1992年リオの地球サミットでのスピーチ。 ● ①スピーチ 環境保護のために活動するセヴァンのの、1992年リオの地球サミットでのスピーチ。 ● ②スピーチ 環境保護のために活動するセヴァンのの、1992年リオの地球サミットでのスピーチ。 ● ③スピーチ 環境保護のために活動するセヴァンのの、1992年リオの地球サミットでのスピーチ。</p>

8 資料②：千種高等学校HP 英文版ブログに見る「千種の教育活動」

千種高等学校のHPをご覧いただきたい。生徒や学校教育の「今」を伝える日本語版ブログと共に英文版のブログを持ち、かなり頻繁に更新して「千種の教育活動」を海外に向けて発信している。過去ほぼ1年間の数ある記事の中から特徴的なものを幾つか掲げ、英語学習上の話題としたい。

2013/05/27 "Impro" Activities Going On !

Four years have already passed since Chikusa High School introduced the "impro" activity in order to develop the students' personalities and communication skills. We have this activity about 10 times from April through October every year.

"Impro" is a shortened form of "improvisation." It is widely known as an effective approach to improve people's abilities of communication and expression. Through the practice of acting, talking, singing, dancing, and playing together, students gradually acquire the skills necessary to make better relations with each other.



1st Grade



2nd Grade



3rd Grade

The themes of the activities vary from grade to grade. The topic of the 1st graders today was "playing together." By mimicking or imitating one student's action, all the other students tried to share the same movement and understand the meaning of "cooperation."

The 2nd graders worked on "building trust." The point of this activity was to close their eyes. With their eyes closed, the students played a game and they found how important trusting each other was.

The theme of the 3rd graders was "cooperative problem-solving." First, the students were required to make a circle by holding hands in a complicated way. Then, they tried slipping the knot to learn the importance of cooperation.

Our impro activities are designed and instructed by Ms.Rie Hasenaka, a professional drama teacher and improviser in Akashi, Hyogo, Japan.

2013/06/08

CHIKUSA Cleaned Up by the Students!

Since 2009 Chikusa High School and Chikusa Junior High School have been working together to keep the town tidy.

The other day, on the morning of June 4th, about 100 students from both schools (9th, 10th, and 11th graders) collected lots of rubbish at the Shibiki Pass (at the border with Okayama Prefecture). The pass was originally a nice spot to enjoy the view of Chikusa, but it has also been a dumping ground for many years. The hillside is so steep that they used some ropes to climb down the slope and to carry the rubbish up to the top. Thanks to the hard work and the great teamwork of the students and some local people, the mountain side became very beautiful.



In the afternoon, another group of about 60 students (7th and 12th graders) picked up litter and garbage in the town center, and some of them cut the grass and weeds at Omori shrine, Suginoko kindergarten, and at Chikusa-no-Sato nursing home. This group was made up of 18 and 13-year-old students, and the experience of working together helped develop their sense of membership within the community.

8th graders did not take part in this activity, because they were engaged in the "Trial Week" work experience this week. This is an innovative and epoch-making approach toward life-long and career education promoted by the Hyogo Prefectural Board of Education since 1998. All 8th-grade students in Hyogo work at shops, offices, kindergartens, public institutions, etc. in their community for 5 days.

The Japanese are often said to be a people of high morals, especially when their behavior was observed just after the East Japan Major Earthquake in 2011. However, we must recognize the fact that some people still illegally dispose of rubbish and garbage in many places all over Japan. We have come a long way, but we still have much further to go to keep Japan tidy.

2013/06/17 **Co-teachings Flourished in Chikusa!**

Last week some teachers of Chikusa High School taught PE and Information to Chikusa Junior High students. We call the classes "Cooperative Class (Renkei Jugyo)," because teachers of both the junior and senior high schools work together for the students of both schools.

Mr.Fukunaga and Ms.Ueyama visited the junior high school on June 11th, and they taught Gymnastics to the 8th and 9th graders in the 3rd and 4th periods. Starting with warm-up and calisthenics, the students were gradually advised to try doing handstands, leap frogs, forward rolls, and so on. At first, some of the students were afraid to practice the exercises, but the two teachers and Mr.Tanijiri, a junior high school teacher, skillfully demonstrated each activity and assisted the young people in taking a good posture. Then, at the end, almost all of them successfully achieved the goal of this period. They are scheduled to take two more PE classes in this co-teaching style, and surprisingly enough, Mr.Fukunaga suggested to the students that all of them should be able to do handspring forward to stand at the very end of the series of lessons. Please cheer a lot for the students.



On the afternoon of June 12th, Mr.Ebisuhara taught the 8th graders how to use "Microsoft Office PowerPoint" in the Computer Room of Chikusa Junior High School. Mr.Ebisuhara is a teacher of "Information" and "Commerce" at Chikusa High School. He used to be a member of JOCV (Japan Overseas Cooperation Volunteers) and lived in the Philippines for almost three years in his twenties.

The theme of this period was to acquire the basic skills of the presentation software, because at the end of this month they are scheduled to talk about their work experiences during the "Trial Week" period from June 3rd through 7th. With the artistic and persuasive teaching approach by Mr.Ebisuhara, and being the children of the "Information Age," the students were quick to understand the state-of-the-art software and they successfully made up the first page of their presentation material in that period. They are going to work on this project both this week and next to express their hearty thanks toward the people in the community. Good luck!

2013/08/04 8th Graders Collecting Iron Sand!

Chikusa is the home of *Tatara* iron production. The product, "Chikusa-*Tetsu* (iron)," has been the best brand especially for beautiful Japanese swords. A legend tells that *Kanayago-gami* (the guardian goddess of iron making) first descended from Heaven (*Takamagahara*) on to the village of *Iwa-nabe* ("rock kettle") in Chikusa. (It is now called *Iwanobe*.) Later, she flew to the mountain village of Hida in *Oku-izumo* (Shimane Prefecture) riding on the back of a white heron. There, she taught the people how to produce iron by using the *Tatara* method. ("*Tetsuzan Hitsuyo Kiji*," Shimohara Shigenaka, 1784)

Tatara iron manufacturing is a method that uses iron sand (*sa-tetsu*) as the source material. Iron is usually produced from iron ore, but in Japan it is scarce. Iron sand, however, is found in abundance, so traditionally our ancestors have been making use of this resource to create iron in a clay furnace called *Tatara*, raising the temperature inside to melt the sand. It has a long history of about 1,500 years.

This method practically ended its role before the 1920's because of the introduction of Western technology, but it is still alive here in Chikusa. Thanks to the active involvement of the Society for Preserving Shiso-Iron (*Shiso-Tetsu wo Hozon-suru Kai*), Chikusa Junior High School students have been learning how to produce iron since 1997 (for 17 years!) as the most crucial field of "*Chikusalogy*" (*Chikusa-gaku* or the study on Chikusa). Before every summer vacation, one important mission or assignment is given to all 8th graders; "Each student must collect 1 kg of iron sand in the Chikusa River."



This year also, you can see the active work of the students to collect iron sand here and there. They use special magnetic devices in the river that are very strong. First, they put it into the river bed to pick up a lot of iron sand. Second, they carry it to the bucket and pull the handle of the device, then the iron sand successfully goes into the container.

Now there are 32 8th graders, so around 32 kg of iron sand will be collected at the end of the summer this year. They are scheduled to practice *Tatara* iron production on October 10th at the site of *Tengoya Tetsuzan* (iron mine and factory) in the northern part of Chikusa. If you are free, please come and observe the hot and magnificent process and artwork of iron making conducted by these young people, the descendants of the iron miners here in Chikusa.

2013/11/09 8th Graders Challenged Tatara Iron Making

On October 31st, 32 8th-grade students of Chikusa Junior High School practiced *tatara* iron production at "Tengoya Tatara Park", a historical site of iron manufacturing in the northern area of Chikusa. The Junior High School has been doing this activity for 17 years because Chikusa is the very place where *Kanayagami*, a guardian goddess of iron production, descended from Heaven (*Takamahara*) in the mythological period.

This activity is fully guided and supported by "The Society for Preserving Shiso Iron (*Shiso-tetsu wo Hozon-suru Kai*)," and it is one of the active groups to preserve the *tatara* method of iron production in the western part of Japan. The chairman of the society is Mr.Masaru Ueyama (80), 4th principal of Chikusa High School, and the academic leader is Mr.Kouki Toba (93), who has written several books on *tatara* iron making and the history of Chikusa.

The students collected about 32kg of iron sand in the local river during the summer vacation (the activity was reported in this weblog on July 31st), and they used it for the iron-making last week. The *Tatara* method is completely different from the Western approach in the sense that we use iron sand and charcoal alternately because iron ore is scarce in Japan. The word, *tatara*, originally meant *fuigo* (a device for air blowing), and it later came to mean a clay furnace for smelting iron sand.



The first picture shows a symbolic Shinto ceremony to pray for the safety and success of the work and the second one is an ignition ceremony. The third is the work of "*sumi-kiri*" to cut charcoal into small pieces, and the fourth is the work of making wet clay balls. These clay balls are necessary to seal every hole of the furnace to raise the air pressure and temperature to the full extent (over 1000°C) as the 6th and 7th picture show. The 5th and the 8th are the work of putting iron sand and charcoal into the furnace almost every ten minutes. The amount of iron sand is 500g and 2kg of charcoal at a time.

After the repetitive work of putting in charcoal and iron sand for about six hours, the students were very much moved and excited when they witnessed the lump of very hot iron flowing out of the furnace at the very last stage of the iron production process. This time they got about 10kg of iron from 32kg of iron sand, and they used 90kg of charcoal.

Through this traditional iron-making activity, the children of Chikusa have cultivated their love and pride for their hometown and the long history of Chikusa. We strongly hope that this approach will be handed down from generation to generation forever.

2013/11/19 **Ranmaru Fever Swept All Over Chikusa !**

Last week on November 13, a professional lady masked wrestler "*Kyusei(The Savior) Ninja Ranmaru* " came to Chikusa High School and gave a truly impressive and inspiring speech to about 250 young people (54 elementary kids, 90 junior high students, 100 senior high students). The title of her lecture was "*Yume wo Katachi ni* (How I Realized My Dream)."

She appeared on the stage with the ninja mask on, but she soon took it off and she started to talk about her life story, especially focusing on some serious hardships in her life. Many people were very much surprised when they saw her left eye, because it was an artificial one. When she was three years old, she had cancer in her left eyeball and there was no other choice but to have it taken out (ophthalmectomy). She later became a karate champion of all Japan when she was 18, and she went on to International Martial Arts University (Kokusai Budo Daigaku) in Chiba in order to master karate furthermore. However, she was mesmerized with professional wrestling and decided to enter the realm of the sport.



The story of her becoming a wrestler was not easy. She was rejected again and again by professional wrestling organizations just because she had a false eye. They were afraid that the sport would cost her her life.

Another hardship occurred just after she finally became a professional wrestler. It was a very serious kidney disease called "rapidly progressive glomerulonephritis," and her doctor declared that she would never be able to come back to the wrestling ring, so she almost gave up her dream. At that time, her mentor, Jaguar Yokota visited her in the hospital with her husband, Dr. Kinoshita. When he heard the name of the disease, Dr. Kinoshita told her, "Oh, it might take a bit long but you can recover from the disease." She was so delighted to hear the words and tried hard to get over the illness. Two years later, she came back to the ring. At the party to celebrate her revival, Dr. Kinoshita said, "I instantly knew that the chance of your recovery was 0% when I heard the name of the disease. I am now very surprised to see the power of a professional wrestler !" Ms. Ranmaru trembled to hear his words, and realized how great the power of "language" is.

Her speech and lecture gave a lot of hope and power to the people in Chikusa. Thank you very much, Ranmaru-san !

2013/11/25 Chikusa H.S. Leads Disaster Drill in the Community !

On the morning of November 23rd, Saturday, Chikusa High School conducted a comprehensive disaster drill with the people in the local community. The emergency drill started at 8:30 with the announcement of an earthquake and a fire alarm in the school building. The local people carried out firefighting training at 6 areas in the community while the high school students were divided into 4 groups of first-aid, evacuation guidance, soup-run, and construction of a wooden temporary house.

The first-aid group learned how to give aid to the injured and how to make a stretcher by using a blanket and two poles. The evacuation guidance party helped local people take refuge at the gymnasium of Chikusa H.S. The students of the soup-run prepared curry and rice for 270 people with the assistance of the PTA. The very attraction and the main event of this year's disaster drill was the construction of a wooden temporary house. The construction team consisted of 15 high school students and 10 junior high school students. With the instruction and guidance of Japan Engineering College in Himeji, they started the work of house-building at 10:00.



As the concept, "a wooden temporary house even teenagers can make," clearly indicates, the young people worked hard and showed a great performance of constructing the house within only two hours as if they were making a big plastic model. More than 200 people watched and witnessed the making of this historical temporary house in the gymnasium. After they finished the work, Mr.Naohiro Asada, principal of Chikusa High School, conducted a topping-out ceremony and climbed on to the top of the roof to raise a special decoration in order to pray for the safe construction work and the recovery of Tohoku and other devastated areas of all over Japan. To complete the ceremony, 8 people threw 1500 rice-cakes from the top of the roof to express special thanks to the people around the house. A rice-cake is a symbol of prosperity and good harvest in Japan. We do hope that the forestry in Chikusa will be prosperous again and the number of children will increase in the future.

By the way, three students (Mr.Kotake, Mr.Shimizu, Mr.Nakamura) finished making a 3-D hazard map of the central part of Chikusa the day before the emergency drill. The diorama, or the miniature town of Chikusa, was placed on a table in the gymnasium and the community people were talking about the geography of the town and the big flood which occurred on July 11th, 1963. The map will be exhibited at the town hall in the near future.



2014/02/09 The 5th JSH Marathon Held in Chikusa

"Hang on!" "Go for it!" "Chin up!" From both sides of the streets came the cheering voices of the people for the young runners. On February 7th, Friday, the 5th JSH Marathon was held under the partnership of Chikusa Junior and Senior High Schools, and it proved to be one of the most important events of this lovely mountain village.



This "marathon" event is actually a 3km run for junior high girls, 5km for junior high boys and senior high girls, and 8km for senior high boys. At 10:50 in the morning at the west gate of Chikusa High School, all the students, boys and girls, started to run at the sound of the starter's gun by Mr. Kita, principal of Chikusa Junior High School. Within only three minutes, the fastest runners reached the town center and they were welcomed by the enthusiastic cheering and applause by the townspeople. Especially, all the children of Chikusa Elementary School stopped their lessons and came out to the main street to wave and cheer for the runners. The voices energized the young people and they clenched their teeth together to finish the marathon.



Although the running was a painful struggle for the students, it also gave them nice views of the natural landscapes and historical places in this mountain village: the beautiful flow of the Chikusa River, the great priest, Kyoshin-shonin's grave, Oomori Shrine, Ninomiya Shrine, Mt.Fueishi (Chikusa Fuji), Mt.Hinakura (Sanno-maru), and so on. Comforted and encouraged by all of these natural and historical treasures of this romantic village, all the youngsters successfully made it to the finish line at Chikusa High School.

We would like to express our heartfelt thanks to all the people who kindly supported the event this winter.

2014/03/08 The Hyakunin-isshu Competition Held

Last Friday, on March 7th, the students of Chikusa High School enjoyed the traditional card game of "Hyakunin-isshu," and they rediscovered the long history of our country and the beauty of the Japanese language.

The Hyakunin-isshu (one hundred people - one verse) is a collection of 100 short poems by 100 different poets, and it was assembled by Fujiwara no Teika or Fujiwara Sadaie in 1235. The verse is called "*tanka*" or "*waka*," and it has 5 lines and 31 syllables: 5-7-5-7-7, while "*haiku*" has shorter form of 5-7-5. Have a look at the following example from the collection.

No.1 TENJI TENNO

Aki no ta no
Kari ho no iho no
Toma wo arami
Waga koromode wa
Tsuyu ni nure-tsutsu.

THE EMPEROR TENJI

Out in the fields this autumn day
They're busy reaping grain;
I sought for shelter 'neath this roof,
But fear I sought in vain, ---
My sleeve is wet with rain.

"A Hundred Verses from Old Japan"(TUTTLE) written by William N. Porter

As you see in the above Japanese verse, the sound of the language has what linguists call a CV structure. C is a consonant and V is a vowel, and the language is phonetically structured with the repetition of CV, while English has a CVC structure. The rhythm of Japanese is created with these sound characteristics: wa-ga-ko-ro-mo-de-wa (7) tsu-yu-ni-nu-re-tsu-tsu (7).



The last picture shows the two kinds of cards in the game of Hyakunin-isshu. The upper cards are called "*yomi-fuda*" (reading cards), and the lower cards are "*tori-fuda*" (taking cards). As the first picture shows, the teachers of Japanese language worked as readers to read the verses aloud through a microphone. The whole verse of 31 syllables is printed on the *yomi-fuda* cards with a beautiful picture of the poet, while only the latter part of 14 syllables is printed on the plain white *tori-fuda* cards.

In front of the students are the *tori-fuda* cards and the participants stare at the words on the cards, waiting for the voices. Then as soon as they catch the first word of the reader, they pick up the right card quickly. One game lasts until the reader finishes all of the 100 verses, and the one who gets the most will be the winner. If you want to win the game, you must memorize all the 100 verses perfectly. Before winter vacation in December every year, many high schools give students an assignment of memorizing all the Hyakunin-isshu verses, because it is among the symbolic games during New Year's in Japan. Though it is now already March, we are still in the midst of a cold winter in Chikusa. Through the game, which has a long history, the Chikusa students truly enjoyed the atmosphere of *O-shogatsu* and the authentic Japanese culture on the snowy day.

9 編集後記

千種町は「連携・一貫教育」の総本山であり、他町では決して類を見ない実践に次ぐ実践の宝庫です。平成22年度の、「学校運営協議会（小学校・中学校）」の設置、中高による「連携型中高一貫教育校」への改編 — これらは共に兵庫県下初の試みであり、その前年に始まった「保幼小中高合同ふれあい文化祭」は、全国的にも類稀なる異年齢集団合同の活動の場として回を重ね、現在に至っています。

小学校と中学校が繋がり、中学校と高校が連携する中で、次は小学校と高校が直接繋がる、或いは小中高が同じテーマで教育実践を図ることが求められてきたのが、平成25年度でした。一つには小中高合同の「生活しらべ」実践があり、年齢集団ごとに定めた生活目標は、児童・生徒の生活改善や規範意識向上の上で大きな成果がありました。

そして今一つ、数ある教科の中で先鞭をつけて取り組んだのが「英語教育」でした。時折しも、小学校の「外国語活動」について「英語」への教科化が検討され、高等学校では「コミュニケーション英語」の導入と共に「英語の授業は英語で行う」ことを基本とする新学習指導要領が実施されたのが、昨年春でありました。秋が過ぎて三室山に初冠雪が見られる時節となって、「外国語活動」のさらなる低年齢化、そして、中学校でも将来的には「英語は英語で教える」という方向性が文部科学省から示されたのです。

「千種町英語教育研究会」と銘打ったこの活動が、今後どれほどの意味を持つのか、それは定かではありません。しかし、自分の学校や同一校種の中だけで教科領域研究を進めていけばよい時代は既に過ぎ去っており、異年齢・異校種間での交流が今後さらに重要になってくると考えています。

最後になりましたが、本研究会の活動は、兵庫県教育委員会主催「教職員自主的研究推進事業」の助成を得て実施して参りました。深く感謝の意を表すとともに、今後ともさらなる研究の遂行をお誓い申し上げ、終わりの言葉と致します。

兵庫県立千種高等学校 教頭 原 田 尚 昭

平成25年度

千種町英語教育研究会実践記録集

平成26年3月30日 印刷

平成26年3月31日 発行

編集・発行 千種町英語教育研究会
